

## 学校関係者評価報告書

学校法人鶴嶺学園

日本ヒューマンセレモニー専門学校

学校関係者評価委員会

学校法人鶴嶺日本ヒューマンセレモニー専門学校、学校関係者評価委員会は平成 29 年自己点検評価報告書の結果に基づき学校関係者評価を平成 30 年 6 月 27 日に実施したので下記のとおり報告します。

### 1. 学校関係者評価委員会

名 前	所 属
竹内 恵司	(学) 鶴嶺学園 理事長 (株)サン・ライフ 会長
竹内 圭介	(学) 鶴嶺学園 副理事長
境野 勝久	道塾慶陽館 主宰
川口 英一	(学) 鶴嶺学園 日本ヒューマンセレモニー専門学校 校長
柳下 伸	NPO 法人 トータルライフサポートクラブ
林 茂	(学) 鶴嶺学園 事務局長
米山 誠一	(学) 鶴嶺学園 日本ヒューマンセレモニー専門学校 教務主任
武田 七郎	社会福祉法人 浦和福祉会 理事
関口 博紀	(有)せきぐち造花店 マネージャー (卒業生)

### 2. 実施方法、公表

学校関係者評価の実施に当たっては、年度末に実施した「自己点検評価」を学校関係者評価委員会の皆様にごらんいただき、自己点検評価の各項目に対するご意見と評価を取りまとめました。

評価結果は今後の本稿における教育活動や学生指導の学校運営の改善に活かし教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等に公表します。

### 3. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

各評価項目別の質疑意見は以下の通り

評価項目（1）	教育理念・目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園、学校の理念は変わらないものだが、時代に合わせて目標は変えてゆく必要がある。</li> <li>・卒業後、即戦力になる人材の教育を行うこと</li> <li>・キャッチコピーを確定する</li> </ul>	
評価項目（2）	学校運営
<p>サン・ライフグループをはじめとした関連企業、施設との連携を強化。 実習先、就職先としての教員と施設との連携をすすめること。</p>	
評価項目（3）	教育活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の基礎学力低下（質の低下）が見られる。一般的な常識からも学べるように。</li> <li>・教員自身の質の向上のためにも、外部の研修には積極的に出て欲しい</li> <li>・退学者の防止への取り組みを継続。教職員連携し、面談等の早めの対処を。</li> </ul>	
評価項目（4）	学習成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・退学者、留年者防止への取り組みを継続。いままでどおりのやり方では大きく改善しない可能性もある。</li> <li>・資格の取得については連続して葬祭ディレクター資格 100%合格を維持している</li> <li>・ライフエンディングパートナーズ資格の受講も継続して行うように</li> </ul>	
評価項目（5）	学生支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨今の様々な異常気象、天変地異による家計支持者の急変（失職等）が考えられる</li> <li>・学生の日常の生活面にも気を配る</li> </ul>	

評価項目（6）	教育環境
<p>一昨年、机、椅子、実習室（和室）のリニューアルを行った。          今後も必要な設備の改善は行っていただきたい</p>	

評価項目（7）	学生の受け入れ募集
<p>少子化、大学進学率の上昇、業界の不人気もあり、高卒者の確保が難しい状況ではあるが、姉妹校の提携高等学校への授業などで、業界の魅力や、就職の有利さを啓蒙してゆくことも大事。また、18歳人口に頼らない既卒社会人の取り込みも急務の案件である。          高等学校などへの出張授業も継続して行うとよい。</p>	

評価項目（8）	財務
<p>学生数減少に伴う収入の減少は避けられない。          学費未収の防止、中途退学者の防止に継続して努めるように。          職業実践専門課程を取ったからこそ申請できる、公共の訓練などにも積極的に          参画し、収入を増加させる必要がある。</p>	

評価項目（9）	法令の遵守
<p>特に問題なし</p>	

評価項目（10）	社会貢献・地域貢献
<p>関連施設や、地域へのボランティアには積極的に取り組むようにしてもらいたい。</p>	

## 総評

上記10項目に対し、委員による評価を行った継続的に調査を行い、学校運営の質の向上を図ってゆく。また、職業実践専門課程取得校として、学校の独自性、優位性を維持し、広くアピールして行くことも求めたい。実際に地方へ募集活動で出向き、学校の魅力を伝えることが大事。また現場のニーズを重視したカリキュラム編成や校外実習など学生の実践力向上に対する取り組みを、業界の情勢を鑑みながら続けてゆくこと。ライフエンディングパートナーズ資格を継続して学生に受けさせることで、葬儀のときだけでなく、その時期に付随したエンディングライフ全般の学習も大事である。

以上

